

毛利輝元公の没後400年を記念

9日に「萩時代まつり」

城下町萩を代表するイベントのひとつ「萩時代まつり」が11月9日(日)に開かれる。今年は「毛利輝元公四百年祭」を冠し、大名行列や墓前祭、岩国藩鉄砲隊の実演、萩時代パレードなど恒例のイベントに加えて、クイズラリー「毛利をさがせ!」も新たに開催される。

「萩時代まつり」は、萩市観光の秋の目玉イベントにしようと平成7年に始まった。ルーツは金谷神社の秋季大祭に合わせた行われていた奉納行列。菅原道真を祭神とし、市民に天神様と呼ばれ親しまれている金谷神社の前には、江戸時代に城下町の表玄関ともいえる大木戸が設けられていた。大木戸には番屋が置かれ、日暮れから夜明けまでは城下への出入りを差し止めることで治安を維持していた歴史がある。

大祭では例年、毛槍や道具類を受け渡ししながら練り歩く奉納行列が行われており、大名行列さながらの迫力で注目を集めていた。

今年の祭りは午前8時頃の萩大名行列(平安古備組)で幕を開ける。市内を練り歩きながら「イサヨシ」のかけ声とともに毛槍を投げ渡したり、道具類の持ち手を交換しながら市内を練

り歩く姿は江戸時代さながら。萩博物館前では御駕籠の前で草履を持つて舞う「草履舞」や、長さ5.5メートルの長柄の槍を豪快に操作する「長州一本槍」が披露される。

9時からは毛利元就公の墓所である天樹院で没後400年を記念した墓前祭が執り行われる。

11時30分からは中央公園で岩国藩鉄砲隊の実演。昭和62年に

発足し、各地で戦国時代の様子を再現した砲術を披露している保存会のメンバーが使用する火縄銃は、江戸時代に製作されたもの。一糸乱れぬ動きと二斉射撃の爆音は観客のどよめきを誘うほど。

午後0時20分に、萩時代パレードが中央公園を出発。御許町交差点を経て金谷神社に向かう。パレードは、光塩学院高校書道部を先頭に、横断幕、明倫小カラーガード、県警音楽隊、観光小町、毛利歴代藩主、岩国藩鉄砲隊、高校吹奏楽部、奇兵隊という顔ぶれ。

神社前に特設ステージ

新企画「毛利をさがせ!」も

当日、金谷神社前のJA駐車場には特設ステージが設けられ午後1時から様々な演目が繰り広げられる。出演は、椿町町内会、明倫小、高校吹奏楽部など。県警音楽隊の演奏や光塩学院書道部のパフォーマンスに続き、3時半からはもちまきも。

また今回は、毛利輝元公没後400年にちなみ、「毛利をさがせ!」と題したクイズラリーを初開催。市内の各ポイントに



昨年の萩時代まつり(歴代藩主)